

## リコーの研究開発部門における ジェンダーフリーへの取り組み ——グローバル競争時代の企業戦略として——

國井秀子

リコーはあらゆる行動を顧客起点で実践し、新たな価値を生み出し、提供し続けることにより「成長と発展を続けるグローバル企業」を目指している。そして、その実現に向け取り組んでいる「着実に成果を上げる元気のいい会社作り」はリコーグループの中期経営計画の重要な柱の一つである。

ソフトウェア研究開発本部では、これを受けて、高い目標を自ら掲げ達成する「元気のいい研究所」の実現を目指し、「性別にかかわらず、働きやすく、かつキャリアアップを図る」ことを目指して、ジェンダーフリーに向けた活動を本部運営の重点課題として推進している。

企業を取り巻く環境の変化は激しく、ビジネスモデルやビジネスプロセスのパラダイムシフトがグローバルなレベルで起きている中、変革を担う多様な価値観を持つ

た人材がますます求められる。ジェンダーフリーやダイバーシティへの対応は企業を成功に導く「企業戦略」として取り組むべき課題と認識している。

研究所という性格もあり、従来から職場の雰囲気はかなり自由である。在宅勤務者、育児短縮勤務者、外国人研究者、障害を持つ研究者などが隔たりなく研究活動に従事しており、リコーの中でも多様性に富んだ職場である。しかし、無意識のジェンダーバイアスはないか、子育てや介護、自己啓発も含めてワークライフバランスが保てる職場環境か、社員一人一人のキャリアアップを意識した仕事の与え方か、自らキャリアを描きキャリア開発に取り組める職場か、新たな提案活動に積極的に取り組んでいるか、など、社員個々の満足度向上と組織力強化のため、2002年に「GET4プロジェクト」<sup>(注1)</sup>を設置

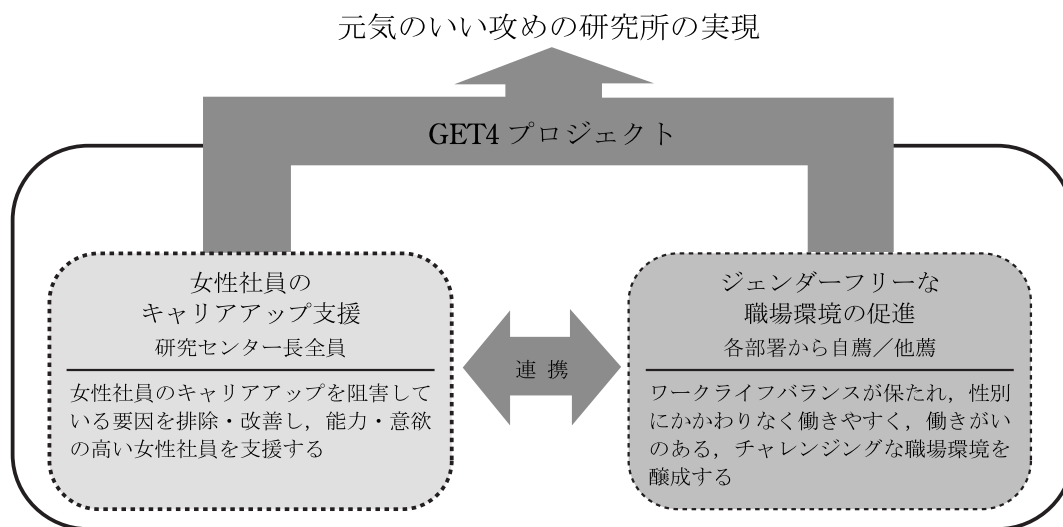


図1 GET4プロジェクト活動 女性社員のキャリアアップ支援とジェンダーフリーな職場環境の促進という二つのテーマを両輪とした活動。

國井秀子 正員 (株)リコーソフトウェア研究開発本部  
E-mail hideko.kunii@nts.ricoh.co.jp  
Hideko KUNII, Member (Software R&D Group, Ricoh Company, Ltd., Tokyo, 112-0002 Japan).  
電子情報通信学会誌 Vol.90 No.7 pp.565-566 2007年7月

(注1)プロジェクト「GET4」は、この活動の目指すところを表した名称で、Gender Equality Towards 4 targets : for a better life, for a better workplace, for a better Ricoh, for a better worldを意味する。

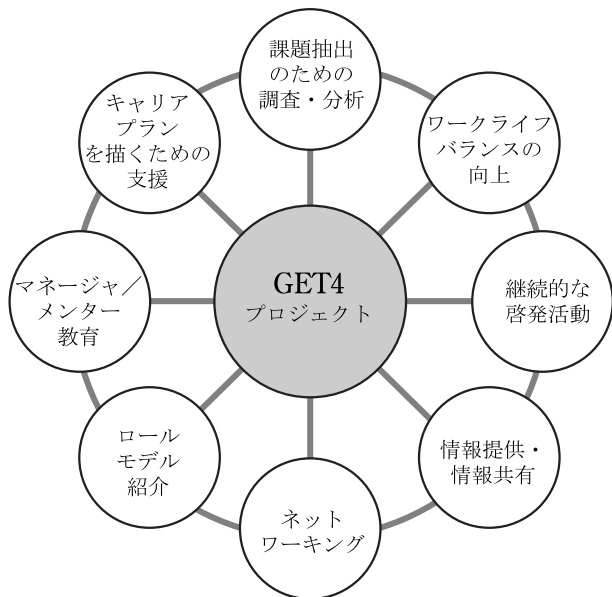


図2 GET4 プロジェクトでの取組み 相乗効果をねらいバランス良く多面的な活動を展開。

した。

GET4 プロジェクトは、図1に示すように女性社員のキャリアアップ支援とジェンダーフリーな職場環境の促進という二つのテーマを掲げ、女性社員のみならず男性社員や管理職もメンバーとして活動している。相乗効果をねらい、図2に示すような多面的な活動をバランス良く継続的に行っている。特に女性社員のキャリアアップ

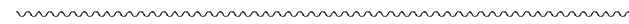
支援の推進にあたっては、女性社員とその上司への意識調査を実施し、仕事への取り組み方やスタンスの把握を行った。その結果、女性社員をひとくくりに考えず、個人の現状を踏まえた上で、キャリア開発プランを描かせる必要性が明らかになった。また、女性社員は仕事の責任感が非常に高いが、自己評価は厳しく自信のなさが見えたが、キャリア開発に関して上司のかかわりが弱いということも分かった。そこで、ワンランク上の目標を持ちチャレンジする人材を育てる施策として、女性部下を持つ組織職への教育、メンタリング制度、キャリア戦略講座などを導入してきた。更には、ジョブローテーション、組織横断的な活動への参画支援、グローバルに活躍する場の提供、社外人脈作りの推奨などを行っている。

潜在能力を掘り起し、多様な人材が活躍することで、従来の固定観念にとらわれず新たな価値を創造し、新たなビジネス展開を図るためにも女性ももっと意思決定の場にいることが重要である。この実現を目指して、ソフトウェア研究開発本部は、全社レベルでの施策との相乗効果をねらって今後も積極的な活動を展開していく。



国井 秀子 (正員)

昭45お茶の水女子大・理・物理卒。昭58テキサス大 Ph.D. 昭57(株)リコー入社。以来ソフトウェア分野の研究開発責任者。平17同社常務執行役員。日本学会会議連携会員、日本データベース学会副会長、IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group 副会長。



平成19年8月号小特集  
「情報通信技術によるユビキタス医療への挑戦」予定目次

|                                    |                 |
|------------------------------------|-----------------|
| 小特集編集にあたって.....                    | 編集チームリーダー 鷲見和彦  |
| 1. 情報通信技術を活用した在宅医療分野での取組み.....     | 岩野賢二 宮崎仁誠       |
| 2. 情報通信技術を利用した在宅介護予防システム.....      | 坪井俊明 村田節子 藤村香央里 |
| 3. 情報通信技術を活用したヘルスケアネットワークシステム..... | 朽久保 修 山末耕太郎     |
| 4. 新しい医療のための画像処理技術.....            | 末永康仁 森 健策       |
| 5. バーチャルリアリティを用いた内視鏡外科手術教育.....    | 小西晃造 橋爪 誠       |
| 6. 医療における力覚メディア.....               | 中尾 恵 黒田知宏       |